

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	痴呆対応型グループホーム 粕川カトレアホーム
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	群馬県前橋市粕川町深津1144-2
記入者名 （管理者）	立川 律子
記入日	平成 19年 9月 7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	近隣の入所者が多いため家族以外の友人・知人等の面会者にもいつでも来所して戴ける様にしている。又、なじみの場所へも散歩花見などを通じていけるように計らっている。今まで生活していた場や人に触れることにより安心や行動の落ち着きに役立っていると思う。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員共に、いかに入所者に対し質の良い介護サービスの提供が出来るかという事に日々心を傾けている。入所者が人間らしい尊厳を保ち、心地よい日々が送れるよう知識を得て、実践に向けて努力している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	なかなか地域へホームの趣旨や内容をアピールする機会が無いが、見学者があつた場合はいつでも快くホーム内を案内し利用案内をさし上げたり、趣旨・内容を説明して理解を深めていただける様にしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	推進会議のメンバーを近隣者に依頼したことで散歩や庭の草花の手入れ、買物時などで気軽に声をかけていただけるようになった。また、折々の花を届けてくださる方もおり関わりが深まったと思う。また、メンバーを通じて徐々に他の方にもホームの事を知ってもらえるのでは。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事に声を掛けていただいた場合には積極的に参加している。入所者の健康状態が良ければ更に機会を増やしたい。また、日常の散歩時にも声を掛けてもらったりしているので、地域の一員として出来る限り交流の機会を持てるよう努力していきたい。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は入所者にいかに質の高い介護を提供し、入所者が安心・落ち着いて生活できるよう日々取り組んでいるので地域の高齢者にまで手が回らないが、高齢者を抱えた家族が相談に見えた場合は知識や介護方法など出来る限り提供したい。	○	機会があれば公民館等で地域講習会が開かれる折等に高齢者認知症の方の介護方法の提供や知識の提供をして少しでも地域貢献をして行きたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果と自己評価の結果を対比し、管理者・職員共にそれを踏まえた意見・提言を取りまとめ、更に質の向上を目指している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎の運営推進会議において外部評価結果の報告、それに対する取り組み方、入所者への介護の状況、環境対策、家族との関わり等、あらゆる事案の報告を行い、会議での意見にも速やかに対処し日々の介護に活かすよう努めている。	○	参加メンバーからアドバイスなど戴きメンバーの方と協力して行えることが無いのか模索していきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村グループホーム事業の推進にとって重要な存在であるが、あまり接する機会が無いため運営推進会議の席で出来るだけ話し合い、相談するよう努めている。	○	市町村関係者と折にふれ活動や実態を伝え協力関係を築いて行きたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者・職員共に、いかに入所者に対し質の良い介護サービスの提供が出来るかという事に日々心を傾けている。入所者が人間らしい尊厳を保ち、心地よい日々が送れるよう知識を得て、実践に向けて努力している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当ホームでは今のところ虐待等ないが、常に入所者の状態は見るようにしている。先ずはそのような状況が発生しない様に管理者・職員・入所者の風通しの良い環境作りに力を注いでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望者家族にはグループホームの目的や主旨、また当ホームの利用案内を提示し、出来るだけ平易な言葉で説明している。また、どのような質問にも丁寧に答え、理解・納得していただくよう努めるとともに、出来るだけ不安を取り除く努力もしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から入所者と職員の間を隔てる事の無いよう良好な雰囲気作りに努め、お茶や食事の時間に希望や意見等を聞く様努めている。また、何気ない会話の中からも入所者の心を汲み取るよう努力している。不満や苦情が言える関係、出来ればそれも無いホームでありたいと思っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の折に入居者の生活状況・健康状態など出来るだけ詳細に報告すると共に家族からの希望も聞く様努めている。又、何気ない会話の中からも入居者の心を汲み取るよう努力している。又、普段から不満や苦情が素直に言える関係作りに努めている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誰の目にも触れる玄関の上がり口にご意見箱を設置している。家族の面会時にも必ず意見改善して欲しい事等無いか伺いその場で解決出来るように努め不安を取り除けるよう努力している。その場で無理なときは後日必ず返事を連絡している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に全職員が一堂に集まり会議をしている。ホーム全般に渡っての意見・提案などが積極的になされる様にしている。改善点があった場合は速やかに対処しより良いホーム作りを職員一同で目指している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の体調の変化による介護の変更、家族・職員の上にかかる不則にも勤務する職員に通常以上の負担がかからぬ様勤務調整が出来るよう余裕のある勤務体制を整えている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が退職する場合は入居者の関り方に応じた対応取るよう努めており心が受けるダメージを出来るだけ少なくする様している。新しい職員が入った場合はお互いが一日も早く慣れ親しめるように触れ合いの時間を持つ様努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の中には経験の豊富な人もいればまったく初めてという職員もいるので研修に積極的に参加するように勧めている。又、日々の介護を通じて知識や技術の向上・習得のためにデモンストレーションを行っている。日々、入居者が安定した質の高い介護が受けられるよう努めている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム相互の研修や受け入れを積極的に行いサービスの質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に食事会の機会を持ちその席上で希望や改善して欲しい点を気軽に話してもらえよう日頃からスタッフとの良好な関係作りを心掛けている。また、各自が月3～4回ゆっくり休養が取れる勤務表とし事前に休み希望なども取り入れている。スタッフの健康管理にも努めている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の努力も認め労いの言葉も多く掛けるよう心掛けている。職員が学ぶ喜びを持ち質の高いサービスが提供できる自信と誇りが持てるようにしている。ストレスが溜まらないよう雰囲気作りもしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者が新しい生活に慣れる様どんな些細な質問にも誠意を持って答えるようにしている。精神的に安定し落ち着いた様子が見えるまでは目配り気配りを心掛けている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	新しく入居した家族に対しても項目23同様に接しているが家族としては目の届かぬ所にいる訳なので入居者が落ち着くまでは頻繁に状況説明するよう努めている。又、家族からの情報が得られるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム本来の目的に添う対象者であるかどうか見極め入所可能な場合はその対象者にどのようなサービスを提供することが出来るか、又、失われつつある能力を引き出すことが出来るかなど一人ひとりにあった対応に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には本人と家族と共に来所して頂き、目的やサービスを充分説明し納得してから入所してもらっている。しかしながらごく稀に本人があまり希望しないにもかかわらず家庭の事情から家族に強く望まれ引き受ける場合もある。その様な場合は度々面会に来てもらいだんだん本人が慣れて安心してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	どの入居者も今までの生活を通して趣味や職業を通しての得意分野がありそれを機会ある毎に日常の生活の中で発表してもらったり教えてもらったりしている。そうすることにより自分の存在に自信を持つことになり安心や落ち着きにも通じている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時には出来るだけ細かく近状を伝えるようにしている。又、家族の面会毎に情報を得ることが出来るので更に質の高いサービスの提供に役立つよう努めている。当ホームの場合個室での面会もあるが共用のフロアで和気藹々と面会していることが多く、他の入居者とも気軽に接しおりそれも心の落ち着きに役立っていると思う。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	少なくとも原則月1回の面会を御願っているが勿論多くの面会を歓迎している。入居者も面会が多いとその分家族の絆が強まり自分の存在の確認にもなるらしく家族との関係も良好になる。又、事情により面会のない家族にはホームから本人の近況を知らせるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が近辺の方が多いので美容院・医療施設などはそのまま継続出来るようにしている。又入居前に交流の会った人との面会の機会も持っている。季節によってお花見・紅葉狩り等も入居者の馴染みの場所があれば希望に沿うようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションやお茶の時間は一部を除き自然に気の合ったもの同士で並んでわきあいあいとしている。極稀に気持ちの行き違いからトラブルになりそうなときは、さりげなく職員が間に入りその事象から自然と気持ちが遠のく様になっている。今のところ入居者・職員とも人間関係は良好である。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入所後状況が変わり軽度となったため退所された方にも来所しての相談、電話での相談にも快く応じ、必要な情報の提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活(食事・お茶・風呂等)の会話を注意深く聞く様にし、その中から入所者が何を希望しているのかを把握するよう努めている。入所者によっては会話が困難であるため、その場合には自分が同じ立場であつたら何を求めるであろうかと考え、本人第一との立場に立ち対処するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に把握した情報は全ての職員に共有させ、ひとり一人の人間性を尊重し、ホームでの生活が良好なものとなるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入所者ひとり一人の一日の暮らしぶりを注意深く観察し生活のリズムを把握するよう努めている。ある程度の流れがつかめると異常があつた場合早期に気づくことが出来る。記録もまめに行い申し送りも徹底、全ての職員が同一の情報を手にすることが出来るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所者が心地よい暮らしが出来るよう本人、家族、管理者、職員、必要に応じて関係機関の医師などと情報・意見交換をし、それに基づいたより良い介護の提供を心掛けている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に即した介護を提供しているが、入所者によっては見直しを余儀なくされることもある。その場合は早急に本人、家族、管理者、職員等で話し合い、状態に応じた対応を即座に取れるよう対処している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ひとり一人の細かな記録を行い、確実な申し送り、同一の情報共有を徹底している。随時カンファレンスを行い計画の見直し、対応、実践に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人家族の状況に応じ、十分な職員数、常勤の看護師、関係先の病院・医師等の連携により、速やかに様々な要望、状況の変化に応じられるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在、地域のお祭りなどの参加は積極的に行っている。また、幼稚園からの訪問を受け楽しい一時を過したりしている。日常と違った時間を過ごす事は入所者にとって良い刺激となるらしく、生き生きと楽しむ姿が見られる。これからも出来る限り希望を取り入れ工夫したい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今のところ当ホームでの介護支援やサービス提供で充分支援が出来ておりその必要性を感じないが、そういった事案が発生した場合にはその様な支援をしたいと思う。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	同上		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の必要が発生した場合、本人・家族の希望を聞き、納得の上でホームと連携体制を整えた医療機関から適切な医療を受けている。また本人・家族が以前からのかかりつけ医を希望する場合はその様にしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	3ヶ月に1度定期受診をし必要に応じたアドバイスや投薬を受けている。職員もそれぞれ認知症関連の文献を読んだり、介護福祉関連の記事には努めて目を通し、知識を高め質の高いサービスが提供できるよう努力している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	2名の看護師が常勤しているので日常の健康管理は充分行えていると思う。また、看護師も日々向上している医療の知識を得るべく努力し、それが入所者へ反映できるよう努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した入所者に対しては出来る限り頻繁に面会し、状態を確認し、主治医やケースワーカー等の関係者とも密に情報交換し、当ホームの介護力など受け入れ状況も伝えて早期退院に向けての連携に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の介護マニュアルを作成し、出来る限り心地よい生活が出来るよう努め、家族に対しては現状を詳しく伝え協力を得られるようにし、嘱託医との連絡も密にとっている。全ての職員と介護方針の共有を図り、最後まで質の高い介護を提供したい。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期であっても状態の許す限り他の入所者との交流も図っている。できる限り平穏で落ち着いた環境づくりに努め心地よい日々が過ごせるように、職員・家族・かかりつけ医と共に支援できるようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者が別の居所へ移り住む場合 先ず本人の心のケアを第一とし不安材料の解消に努め 又、家族との連携を密にしその事象から受けるダメージを防止し最小限となるよう努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の人間性や誇りを傷つける様な声掛けは行なわないよう徹底させている。幸い当ホームは良好な関係が築かれている。入居者の個人情報適切な介護サービスの提供を行うためのものであり外部への持ち出し禁止し、第三者へ目の触れることの無いよう徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者が希望や思いを表出しやすい様に普段から良好な信頼関係が構築できるよう常に努めている。中には遠慮がちな方もいるので汲み取るよう努力している。自己決定に関してはできる限り本人を尊重し行える環境が整えられている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムが把握できているので先ずそれを優先としている。その上で、その日1日を気持ちよく過ごすためにどのような希望があるのか 又、どのような支援がよいかを検討し希望に沿った支援に努めている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれに関しては本人が希望が言える方には職員が適宜希望に沿って支援している。又、手助けが必要な方には常に整った身だしなみであるよう支援している。理容・美容院は行きつけのある方はそこを利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の力量に応じて下ごしらえ・配膳・下膳・食後の掃除など和やかなうちに協力し行っている。食事が楽しみなものとなるよう献立にも気を配っている。食事中は会話が途絶えることなく入居者にとって楽しい時間となっているのが伺われる。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日々のメニュー作りに入居者の希望は常に聞きそれを反映させるように努めている。献立も変化に富むよう工夫し、季節の行事たとえば七夕・お正月・クリスマスなど行事にふさわしい献立となるよう努め常に楽しみなものとなるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄記録も必ずとりスムーズに介助できるよう努めている。また、注意深く見守ることによりサインを出来るだけ見逃さないよう努めている。入所者によっては時間を見計らって声を掛けるようにしている。失敗することがあってもできる限りおむつの使用は避け、自力排泄の支援に努力している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間帯は決まっているが、入浴も食事と同じく楽しみなものとなるよう工夫している。入浴日には温泉ののれんをかけ気分的にも楽しんでもらえたらと思っている。希望、また必要に応じて入浴日ではなくとも行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は良眠できるような環境づくり、生活リズムが出来るよう支援している。昼間については体調など様子を見ながら昼寝や休息の時間を設けている。一方、昼夜逆転とならぬよう常に注意深く見守っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入所者の生活歴により趣味や得意なものを持っており、一人ひとりが自信を得たり誇りを持てるよう支援している。洗濯、調理、清掃など出来る仕事を積極的に行ってもらう事でホームでの役割を得て、生活の張り合うや出来ることの喜びにつながっている。手芸なども積極的に支援し、貼り絵などは見事でホームのカレンダーとしたほどである。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は力量に応じて管理してもらっている。管理できない入所者の場合、職員が同行支援している。この場合、レシートは必ず保管し、後日家族に提示するようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は健康維持にもつながるため力を入れている事のひとつである。希望者には常に職員が付き添い、安全確認のうえ行っている。体調不良や天候不順でない限り希望に添って行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との外出はいつでも可能である。買物や受診での外出、他の入所者との行楽、お花見、紅葉狩りなど出来る限り支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話などは入所者が自分の存在や家族・知人などとの絆を確認することが出来、また心の安定につながるものであるため不自由なく行うことが出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入所者を取り巻く馴染みの方々との面会は本人の体調不良でもない限り、いつでも何の制約も無く可能である。また、遠方からこられる方のためには宿泊の用意も整っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員共に身体拘束をしないなどの禁止行為を正しく理解しており、拘束をしないケアを実践している。むしろ当ホームでは、例えば床についてしまった場合は床ずれをいかに防ぐか、どのような姿勢が楽であるか、そういった苦痛を取り除くことに腐心している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は広義の身体拘束であり地域社会からの孤立を招く事につながるので、日中は施錠せず内外からの出入りは自由にしてあるが、玄関わきの事務室には常に人がおり、他のフロアーにあっても入所者から目を離さず無断外出を防ぐような体制が整っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	共同生活をしているからこそ心の安定や落ち着きに必要なプライバシーの保護には配慮している。また、常に入所者の所在を確認し、無断外出や不慮の事故等防ぐべく努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入所者個人の物品に関しては力量に応じて管理を任せている。また、ホーム内の共有スペースの物もむやみに撤去するのではなく、見守りにより危険を防ぐということにも力を注いでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会、カンファレンス、文献・資料等から知識を得るよう常に努め、入所者ひとり一人の状態に即した事故防止に活かせるよう管理者、職員共に日々力を注いでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、事故発生等に対して速やかに対処できるよう救急マニュアルを作成し定期的に確認している。緊急連絡網も作成し報告漏れの無いようにしている。事故発生時には落ち着いて対処できるよう、その方法も具体的に記述して職員に周知させている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回防災訓練を行い避難誘導や避難方法を実施し誘導手順を確認している。また職員の数が手薄となる夜間などの場合はどうしても近隣の人達の協力手助けが必要となるため協力が得られる様推進会議の場を通して働きかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	身体機能の衰えにより今までの生活が無理になった入居者に対しては個々に出来るだけ快適な生活が出来るようにとの目線で対処するようにしている。ベッド生活が無理な場合ジュータンの上での生活になる場合事前に事情説明し了解を得るようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	週2回の体温測定月1回の体重・血圧測定を実施し普段の健康状態を把握することにより異常時の早期発見が出来る様努めている。異常時には直ちに看護師に報告し対処できるようにしている。また、全職員が同一の情報を共有出来る様努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員サイドで管理し一回毎に入居者に渡し力量に応じた内服支援している。薬によっては禁止されている食べ物もあるため一覧表に明示している。又、副作用は無いかなど様子も注意して見ている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し排泄状況を常に把握している。予防にはバランスの良い食事の提供・水分の摂取量の確認・リハビリ体操の働きかけなどをし良好な排泄習慣が保てるよう努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人が口腔ケアが出来ない場合には、その状況に応じたケアを食後速やかに行い口腔内の状態を観察している。自分で出来る人に対しても時々口腔内を確認させてもらい又、使用している物品も清潔に管理されているか確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢・体調に応じ基本的に決められた目安となる量があるが、天候・体調による変化に応じた水分量の調節や食事形態(きざみ・流動食等)にしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種を実施した、入居者や職員も普段から手洗いの励行している。更に一般フロアから調理室へ入る際もスリッパの履き替え・手洗いも徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	流しを2箇所設置し土つきの野菜などは先ず専用の流し台で洗いその後調理室へ持ち込み再び洗うようにしている。野菜・調理器具・食器・調理室共に清潔を旨とし布巾等もキッチンハイターで消毒洗うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	清掃は勿論、花は人の心を和ませるという視点から一年中花を絶やさず美しさと清潔さを保つよう心掛けている。又、玄関には靴の着脱の際腰を掛けられるよう長椅子も設けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間も先ず心地よさという点で清潔を心掛けている。他に観葉植物の鉢物・季節の花を活けオブジュ等の飾り物も季節ごとに変え楽しんでもらっている。また、入居者のした貼り絵をカレンダーにして飾り喜んでもらっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分に椅子のフロアーその続き間として和室がありその和室にもソファが設置されており、椅子、畳・ソファとそれぞれ好みでくつろげるように工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本的に入居者の好みの物の持ち込みを許可しており個人の好みに応じた部屋となっており、心の安定や落ち着きに役立っているものと思う。入居者によってはしつらいも楽しんでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	普段からホーム全体の清潔さ・良好な居住性という観点から窓の開閉に気を配り空気の流れを良くし又、ブラインドやすだれ等の利用により室内への陽ざしの調節もこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下共有部分には歩行や車椅子の障害となるものは置かず安全に配慮している。人によっては手摺を使用し付き添いながら自力歩行の機能を出来るだけ失わない様配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	それぞれの入居者は、今まで生活してきた事による能力や得意なものを持っているので、その人の特性を活かし、能力を最大限に引き出し失う事のないよう一人ひとりを良く観、観察し対処するよう心掛けている。ホームのカレンダーは貼り絵を得意とした入居者の力作である。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	広い敷地と立地を活かし樹木・草花を植え豊かな緑と花を楽しんでもらっている。入居者の中には水遣りや草取りに積極的に取組しみながら自分の能力や達成感を味わう一助となっている。又、夏は地上から屋根にかけてネットを使用したアサガオやゴーヤを這わせて部屋の窓から緑や花を楽しむと同時に日除けとなる様工夫もしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今迄の設問の中で繰り返して述べてきたが、当ホームは入居者一人ひとりの特性を最大限に生かし快適で心地よい生活がかったの家庭生活の延長線にある生活を介護を通して実践したいと努めている。管理者・職員共に同一の情報を共有し体調管理・残存機能の維持・機能訓練 更に精神的な平安、落ち着き等にも力を注ぎ日々和やかな中に入居者が生活出来る様努力している。